

第61回試験研究成果発表会（ナシの安定生産技術）発表概要

【日 時】 令和6年2月28日（水）14：10～16：05

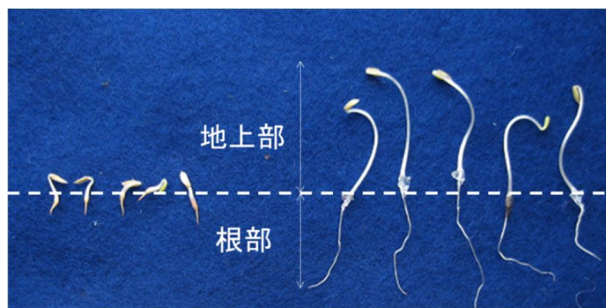
【場 所】 農林総合研究センター大会議室（千葉市緑区大金沢町180-1）

発表1 成果発表

ニホンナシにおけるいや地現象の台木間差及び活性炭によるいや地軽減技術

果樹研究室 金子 夏樹

いや地は、長年ナシ栽培を続けた圃場において、新たに定植した苗木の初期生育が不良になる現象です。本試験では、マメナシ台及びヤマナシ台の「あきづき」1年生苗木を用いて、台木の違いがいや地の発生程度に及ぼす影響を調査しました。また、連作土に活性炭を混和した場合の、樹体生育の抑制程度（いや地リスク）への影響をレタス種子を用いたモデル試験や「あきづき」1年生苗木のポット栽培試験により明らかにしたので紹介します。



レタスの種子を用いたいや地リスクの測定
左：連作土に播種、右：新土に播種



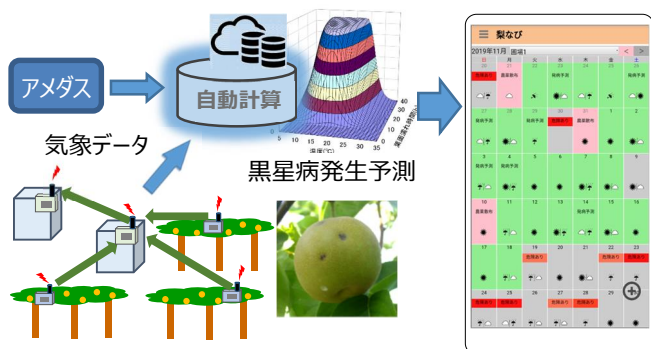
ポットに定植した「あきづき」苗木の生育
左：活性炭を混和した連作土に定植
中央：連作土に定植
右：新土に定植

発表2 成果発表

ナシ栽培におけるスマート農業技術の実証 ～梨なびアプリとロボット台車の活用～

最重点プロジェクト研究室 桑田 主税

令和3～4年度に農林水産省の事業を活用して市川市のナシ圃場で、スマート農業技術の実証に取り組みました。防除支援システム「梨なびアプリ」は、ナシ園の気象データを取得して黒星病の感染危険度をリアルタイムで予測することができ、薬剤散布の低減を確認しました。また、人に自動追従するロボット作業車を収穫物の運搬等に利用した場合の軽労化効果を評価したので紹介します。



「梨なびアプリ」のイメージ



自動追従ロボット台車での収穫

発表3 成果発表

ニホンナシ「幸水」における樹体ジョイント仕立ての定植方法

果樹研究室 井上 雄樹

神奈川県農業技術センターが開発したナシの樹体ジョイント仕立ては、複数樹を接ぎ木して連続した集合樹に仕立てる技術で、早期成園化に効果的であると考えられます。一方で、初期のコストや労力がかかることなどの課題もあります。本研究では、ジョイント仕立て法の栽植密度などが生育、収量及び果実品質に及ぼす影響を調査し、早期成園化に適したジョイント仕立ての定植方法を検討したので紹介します。



定植時のジョイント仕立て



ジョイント仕立ての若木

発表4 成果発表

ニホンナシにおける各種接ぎ木法の実施時期

果樹研究室 井上 雄樹

接ぎ木は品種の更新や側枝の確保に有効な技術ですが、一般的に行われている一芽腹接ぎは適期が短く、実施時期が受粉の繁忙期と重なります。本研究では、一芽腹接ぎ、ノミ接ぎ及び芽接ぎの実施時期別の活着率を調査し、各種接ぎ木法の実施適期を明らかにしました。また、穂木の貯蔵温度と活着率との関係を明らかにしたので紹介します。



ノミ接ぎにより発生した新梢



一芽腹接ぎの穂木の調整

発表5 成果発表

極早生の青ナシ「蒼月（そうげつ）」の特性

果樹研究室 井上 雄樹

（国研）農研機構果樹茶業研究部門で育成されたナシ新品種「蒼月（そうげつ）」は、極早生の青ナシであり、主要品種「幸水」の前に販売可能な品種として有望と考えられます。そこで、千葉県における本品種の生態や果実特性を調査しましたので紹介します。



「蒼月」の果実



「蒼月」の若木